# 実エンドウの需要関数計測による出荷期の選択

［研究のねらい］

本県産実エンドウの主な出荷先であります大阪中央卸売市場における実エンドウの需要関数を計測し、そこから実エンドウ入荷量が市場価格に及ぼす影響と有利な出荷時期を明らかにします。

［研究の成果］

①実エンドウでは市場の年間入荷量が１％増加した場合、年平均価格は0.64％低下することが予測できます。

②入荷量が１％増加した場合の「10月～12月期」、「1月～3月期」、「4月～6月期」の価格の低下率は、それぞれ0.31、0.43、0.71となりました。「10月～12月期」が入荷量の増加に対する価格の下落率が最も小さく、生産量を増やすのに有利です。次いで、「1月～3月期」が有利です（図1、図２）。

③実エンドウは入荷量が増加しても価格の下落率が小さいために、生産拡大可能な品目といえます。

［成果の活用面・留意点］

①大阪中央卸売市場（大阪市本場、大阪市東部、大阪府）の1980年～97年のデータをもとに、入荷数量が１％増加（減少）したとき、価格が何％低下（上昇）するかを計算しました。

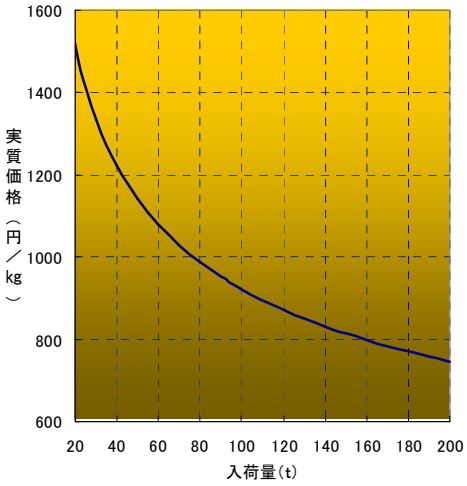


図1 実エンドウの入荷量と価格の関係（10月～12月）

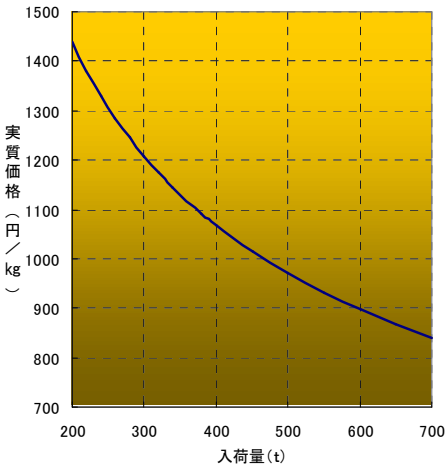


図2 実エンドウの入荷量と価格の関係（1月～3月）

注：大阪中央卸売市場の入荷量と価格の関係を示しています。

写真　実エンドウ（きしゅううすい）の栽培状況

実施期間：平成11年度

担 当 者：光定伸晃、辻　和良